

平成21年（1月～12月）における火災概況

- * 比較値については、前年の確定値と比較しています。
- * 端数処理の関係上、表中の計算が合わない場合があります。

1 出火件数

平成21年中の出火件数は50件であり、前年と比較し16件減少している。これは、7.3日（175時間）に1件の割合で発生していることになる。

第1表 火災の状況 (△印は減少を示す)

		単位	平成21年 (A)	平成20年 (B)	増減 (A) - (B)
出火件数		件	50	66	△16
種別	建物		33	47	△14
	林野		0	0	0
	車両		10	6	4
	船舶		0	0	0
	航空機		0	0	0
	その他		7	13	△6
焼損棟数		棟	49	66	△17
区分	全焼		6	3	3
	半焼		3	6	△3
	部分焼		19	24	△5
	ぼや		21	33	△12
建物焼損床面積		m ²	536	1,182	△646
建物焼損表面積		m ²	199	297	△98
林野焼損面積		a	0	0	0
死者		人	3	5	△2
負傷者		人	2	22	△20
り災世帯		世帯	33	72	△39
区分	全損		9	8	1
	半損		3	9	△6
	小損		21	55	△34
り災人員		人	90	173	△83
損害額		千円	43,463	92,387	△48,924
種別	建物		42,851	89,067	△46,216
	林野		0	0	0
	車両		417	2,800	△2,383
	船舶		0	0	0
	航空機		0	0	0
	その他		195	520	△325
出火率		件/万人	1.8	2.4	△0.6

※ 出火率とは、「人口1万人当たりの出火件数」をいう。

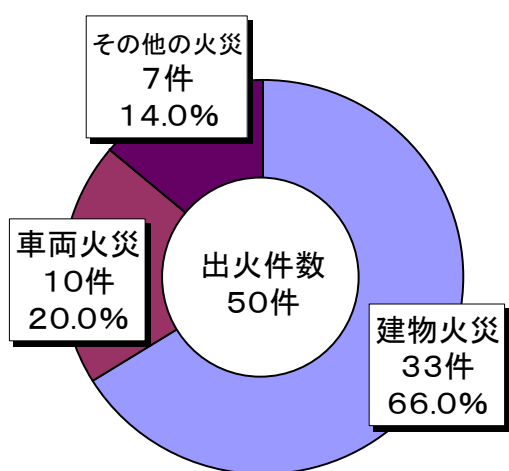
2 火災種別出火件数

火災種別の構成比をみると、建物火災は33件で、全火災の66.0%と最も高い比率を占めている。次いで車両火災が10件（20.0%）、その他の火災（屋外物品等）が7件（14.0%）となっている。（第1図）

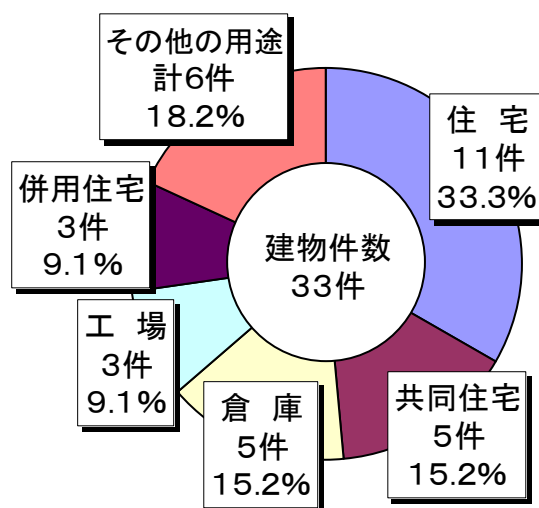
更に、全火災の中で最も高い比率を占めている建物火災33件を火元建物の用途別にみると、一般住宅が11件（33.3%）で最も多く、次いで共同住宅、倉庫が各5件（15.2%）、工場、併用住宅が各3件（9.1%）、その他の用途が6件（18.2%）となっている。（第2図）

※ その他の用途とは、事務所、飲食店、学校、駐車場、複合用途（特定）、物品販売店舗です。

第1図 火災種別の構成比率



第2図 建物用途ごとの火災発生状況

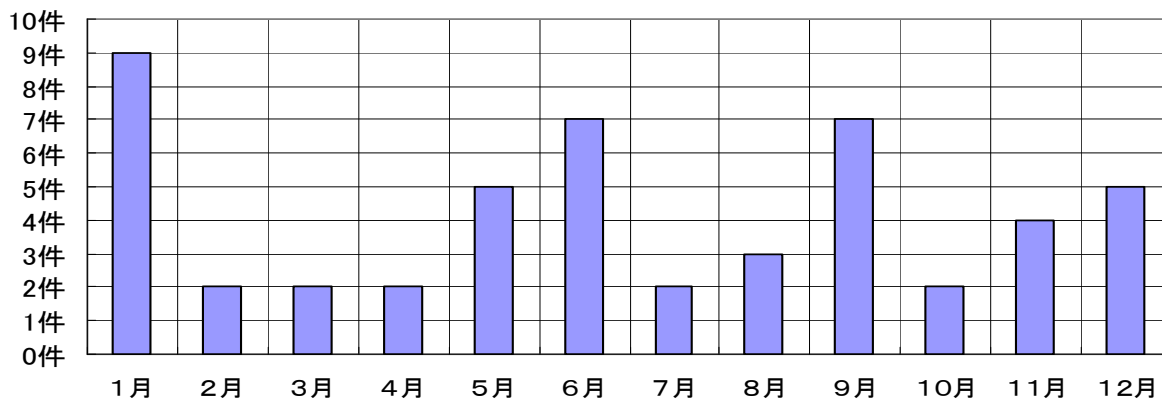


3 月別出火件数

出火件数を月別にみると1月が最も多く、9件（18.0%）発生している。

また、四季別にみると、春季（3月～5月）が9件、夏季（6月～8月）が12件、秋季（9月～11月）が13件、冬季（12月～2月）が16件の発生となっている。（第3図）

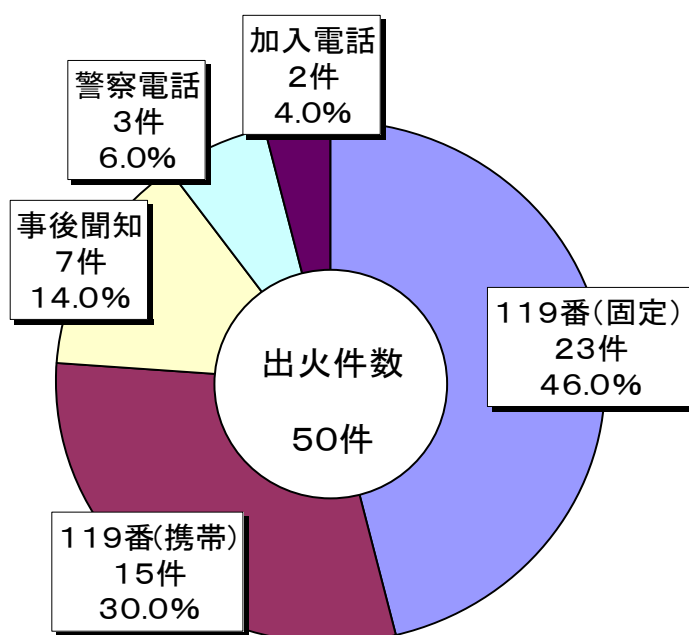
第3図 月別出火件数



4 火災の覚知状況

消防機関が火災をどのような方法で覚知しているのかについてみると、固定電話での火災報知専用電話（119番）による通報が23件（46.0%）と最も多く、次いで携帯電話での火災報知専用電話（119番）による通報が15件（30.0%）となっている。（第4図）

第4図 覚知方法別出火件数



5 損害額

火災による損害額は43,463千円であり、前年と比較し48,924千円減少している。これは市民1人当たり159円、火災1件当たりで87万円の損害となっている。（人口については、平成21年12月末日現在）

第2表 過去5年間の火災による損害額及び焼損床面積の推移

	出火件数 (件)	損害額 (千円)	焼損床面積 (㎡)
平成17年	59	106,520	2,082
平成18年	58	50,109	819
平成19年	67	158,162	1,448
平成20年	66	92,387	1,182
平成21年	50	43,463	536

第3表 焼損床面積100㎡以上・損害額10,000千円以上の火災

月 日	焼 損 程 度		損害額 (千円)
11月30日	木造2階建住宅(長屋) 174㎡焼損	半 焼	6,127
12月12日	木造2階建住宅兼事務所 131㎡焼損	半 焼	12,130

6 死傷者

(1) 火災による死者は3人で、前年と比較し2人減少となっている。

第4表 死者の状況

年 齢	性 別	発 生 場 所	死 因
71歳	男 性	屋 内	不明
85歳	女 性	屋 外	一酸化炭素中毒
73歳	男 性	屋 外	自損

(2) 火災による負傷者は2人で、前年と比較し20人減少となっている。

第5表 負傷者の状況

	応急消火義務者	消防協力者	消防吏員	その他	計
重 症	0	0	0	0	0
中 等 症	1	0	0	0	1
軽 症	1	0	0	0	1
計	2	0	0	0	2

7 出火原因

出火原因別にみると、「放火及び放火の疑い」による火災が19件（38.0%）、「たばこ」が4件（8.0%）、「こんろ」、「電灯・電話等の配線」、「ストーブ」が各3件（6.0%）で、全出火件数の過半数を占めている。

また、「放火及び放火の疑い」による火災は平成6年から16年間連続して第1位となっている。

第6表 過去5年間の主な出火原因の推移

	出火件数	第 1 位	第 2 位	第 3 位
平成17年	59件	放火及び放火の疑い 14件	たばこ 9件	こんろ 電灯・電話等の配線 各4件
平成18年	58件	放火及び放火の疑い 10件	たばこ 8件	こんろ 電灯・電話等の配線 各5件
平成19年	67件	放火及び放火の疑い 16件	たばこ こんろ 各10件	
平成20年	66件	放火及び放火の疑い 19件	たばこ こんろ 各8件	
平成21年	50件	放火及び放火の疑い 19件	たばこ 4件	こんろ 電灯・電話等の配線 ストーブ 各3件